

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名	塚原 加寿子
学位	博士(学術)
学位記番号	新大院博(学)第96号
学位授与の日付	令和元年9月20日
学位授与の要件	学位規則第3条第3項該当
博士論文名	養護教諭の職務に関する周囲のニーズについての実証的研究－養護教諭の役割認知と担任、校長、保護者のニーズの解明に基づく養護教諭の役割の検討－
論文審査委員	主査 准教授 笠巻 純一 副査 教授 横山 知行 副査 教授 松井 賢二

博士論文の要旨

本論文は、養護教諭の職務に関する学級担任、校長、保護者のニーズの因子構造を明らかにするとともに、養護教諭の役割認知との関連を解明すること、さらには、養護教諭が効果的に役割を遂行するための課題について検討することを目的としている。

論文は6つの章で構成されている。第1章では、問題の所在、研究の目的と意義、第2章では、養護教諭の役割とニーズの歴史の変遷、第3章では、面接調査に基づく養護教諭が捉える周囲からのニーズ及び必要となる資質・能力に関する質的研究について述べ、第4章、第5章では、アンケート調査と統計解析に基づく養護教諭の役割についての教職員及び保護者のニーズと養護教諭の役割認知との関連を検討し、第6章では結論を示している。

第1章では、現代社会における子供の健康問題と学校における養護教諭の職務の多様化や職務遂行上の諸問題を示しながら、社会的動向を捉えた養護教諭の役割及び周囲のニーズを検討することの意義と研究目的について論じている。

第2章では、養護教諭の役割の歴史の変遷について論じるとともに、養護教諭へのニーズに関する文献をレビューし、専門職及び教育職としての職務に関するニーズの傾向について論じている。解析結果から、養護教諭へのニーズは、「救急処置」「疾病予防」「健康相談・健康相談活動」「保健教育」「保健室経営」「連携・コーディネート」といった専門職としての役割、「教育的支援」といった教育的配慮に関するニーズに分類され、論じられていることを明示した。

第3章では、質的研究・量的研究によるトライアングレーションを用い、養護教諭が捉える周囲のニーズを明らかにした。さらに、養護教諭に対する半構造化面接調査の結果から、職務上必要となる資質・能力として、「健康課題解決力」「専門職としての力量」「組織マネジメント力」「人間関係力」「教員としての基礎的な資質・能力」「学び続ける姿勢」「前向きに職務を遂行する姿勢」「健康を維持する姿勢」の8カテゴリーを抽出し、資質・能力の階層構造を明らかにした。

第4章では、小・中学校の学級担任、校長、養護教諭、保護者を対象としたアンケート調査の結果を解析し、養護教諭が周囲のニーズに応えるために必要となる課題について論じている。因子分析の結果を基に、学級担任、校長、保護者の養護教諭への職務に関するニーズの下位尺度（「個別の教育的支援」「コーディネート」「保健管理」「組織活動」「保健教育」）を作成し、尺度の信頼性及び内容的妥当性を確認している。また、解析から得られた因子得点を用いて、保護者は、学級担任、校長に比べて、「コーディネート」へのニーズが有意に高いことを示した。一方、「コーディネート」とは対照的に、「保健管理」「組織活動」「保健教育」は、学級担任、校長のニーズが有意に高いことを明らかにし、周囲のニーズに関する因子構造と立場によるニーズの相違を明らかにした。さらに、養護教諭自身が重視する役割と校種、学校規模、養護教諭の経験年数等との関連について論じ、養護教諭の職務の検討に必要な知見を得た。

第5章では、第4章において示した養護教諭の職務に関するニーズの因子構造に基づき、養護教諭の「個別の教育的支援」の役割認知に、学級担任のニーズが影響を及ぼしていることを示唆している。また「保健管理」に関して、保護者の養護教諭に対するニーズに比べ、養護教諭の役割認知が高く、保健管理にかかわる役割の捉え方にギャップが生じていることを明らかにした。

第6章では、第1章から第5章を総括するとともに、本研究において見出された養護教諭への職務のニーズに関する下位尺度を用いた解析結果の有用性を明示している。救急処置や感染症対策、健康相談等、従来から養護教諭へのニーズが高い役割に加えて、養護教諭が児童・生徒に対して行う心身の健康に関する個別の教育的支援及び外部の関連機関・専門職とのコーディネートを重視した健康支援体制構築の必要性を示し、今後の課題と展望について論じている。

審査結果の要旨

本研究の意義は、文献レビュー、面接調査の結果を用いた質的研究、アンケート調査の結果を用いた統計解析による量的研究を精力的に実施し、養護教諭の役割認知と学級担任、校長、

保護者の養護教諭に対するニーズを明らかにするとともに、養護教諭の役割認知に関連する要因を解明した点にある。

塚原氏は、養護教諭の役割認知及び養護教諭に対する学級担任、校長、保護者の職務ニーズに関する調査票を作成するにあたり、先行研究・報告書を網羅的に解析し、カテゴリーを抽出するとともに、面接調査の結果に基づく予備調査を実施、解析する等、アンケート調査から得られる情報の内容的妥当性を確保するための丁寧なアプローチを試みている。

これまで、養護教諭の役割認知や教職員のニーズの実態に関する研究が行われてきたが、養護教諭に対する教職員や家庭からのニーズについて、同一尺度を用いて調査対象校の学級担任、校長、保護者に調査を実施し、養護教諭の役割認知との関連を検討した例は見当たらない。また、多変量解析を用いて養護教諭に対する職務に関するニーズの因子構造を検討し、養護教諭の役割認知との関連を解明した研究も行われていない。塚原氏が多面的に行った調査・解析により明らかとなった養護教諭に対するニーズの因子構造と養護教諭の役割認知との関連、さらには、属性によるニーズの差異は、児童生徒の養護を司る養護教諭の役割の見直しや重点化等に関する極めて有用な知見といえる。これらの成果は、近年、多様化する養護教諭の職務を取り巻く校内体制や研修、養護教諭養成教育の改善策の検討に活用されることが期待される。

他方、本研究の精緻化に向けて、いくつかの課題が存在する。本研究は、解析結果に基づき、養護教諭養成教育及び現職教員への研修の改善に向けた展望を示しているが、文部科学省等の示す指針や各地域の実情を踏まえた更なる検証が必要といえる。すなわち、本研究で得られた知見を、養護教諭養成教育、現職教員への研修に関する制度や構造的枠組みの中に、どのように反映させることが可能なのか、地域性等も考慮した具体性のある提言が望まれる。また、本研究では、養護教諭の役割認知と学級担任、校長、保護者のニーズの相関関係は示されているが、因果関係については明確に示されていない。要因間の因果構造が解明されれば、より効果的な活用の検討につなげることができるため、今後の研究推進が望まれる。

上記の課題は残るものの、これらはいずれも発展的課題であり、博士学位論文としての意義を損なうものではないといえる。本審査委員会は、塚原氏が、今日的な養護教諭の役割を学級担任、校長、保護者のニーズから明らかにするとともに、周囲のニーズと養護教諭の役割認知との関連及び相違を解明し、養護教諭の職務遂行上の支援体制の改善に向けた有用な知見を見出したことを高く評価した。

なお、本論文の学問領域は、いくつかの基礎分野に基づいた研究であり、また、その研究成果は、複数の実践分野への普及の可能性がある。

以上のことから、本審査委員会は本論文が博士（学術）の学位を授与するに値するものと判断した。